

---

# 現代勇者物語

フェイバリット進藤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

現代勇者物語

### 【Nコード】

N4514C

### 【作者名】

フェイバリット進藤

### 【あらすじ】

アバウトなあらすじ少年は平穏な中一だった。そう、この日が来るまでは・・・

## 第一話、旅立ち？

第一章 旅立ち？

舞台は2016年

「おめでとう！君は勇者に選ばれた！」

「は？」

いきなり警察に告げられた。

いや警察・・・軍隊かもしれない。

てか、そもそもここは俺の部屋なのか？

「さあこの武器をもって逃げ！」

「いやまてまてまて！さらに行けが逃げになつてるしいいいい。」

急展開に驚いただろうが（驚いていない奴はいないと思うが）私の名は

田中次郎、

まあ名前みたまんま普通の中一だ。

しかし、足だけは速い。

世界新のひとにも負けない自身ある。

「ん？どうした、私をみつめて・・・

はつまさか私のこと一目ぼれしたとか？

いいよ！彼女になってあげる！てかなれやコラ。」

それは貴様が怪しいからである。

そもそもこの軍服着た女はなにをいつている。

いや、なんだよこいつら！

勇者になれやらなんやらとか。

「世界各地に魔物が出たとゆうことは知っているな？」

2014年に急にニュースでやったのだ。

あのことはさわいでいたものだ。

しかし、2年たったら騒がれなくなったのだ。  
特に大きな動きがなかったせいだ。

「まあ・・・ニュースでもやってたし・・・」  
よくわからない人は私が補足しておこう。

2014年にドイツ、イギリス、日本の  
核漏れで周りの生物の突然変異、

いろいろなことが起こっているのだ。

調査がつづいているが、

その突然変異生物を率いて、

日本に攻めているのだ。

(黒幕の正体はわかっていない。)

「貴様はその黒幕を倒すためにいくのだ。」

「貴様は足がはいとときく。」

「まあそれなりに・・・」

私は世界新をこえているが、

ただ単に、記録申請してないだけなのである。

「記録も世界新を超えているのに、陸上部などに入らない  
と聞く。」

しかし、なぜこの女がそれを知っているのだろうか。

「それとこれが何の関係があるんだよ!!!」

足が速いだけでへんな物語に巻き込まれてたまるか!

絶対いやなんだよ!

「それが大有りなのだよ。」

各地にドラゴンがいることは知っているな?

ついさつき約35000人でドラゴンに対抗して、

30分で入った情報によると。」

・・・なんか聞けばいやな予感がする

おびえること間違いなしって顔しているんだよ。

まてまてまてやめる口を開くなあー

「三万人の軍隊が壊滅したんだよ。」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「おい！まで！無言のまま逃げるな貴様！

ちっ、 2、b5、奴の足を撃て！」

「ただし！麻酔球を使え！実弾はゆるさん！」

『了解！』

『わかりました。』

なんなんだよ。

勇者？は？ド クエかよ。

くそつたれが。俺の人生は

刺激のない世界なんだよ。

畜生が・・・・・・・・ン？

「・・・・・・・・」

人気のない場所、隠れるところ満載

暗闇、行き止まり

「八亜視射市ウエ過疎都地祖古見エー（言葉にできない声）」

どうする？どうする？後ろから足音聞こえますけど。

そうだ！ぶ、武器、なにか武器はないのか？

DVD、財布、マンガ。

・・・望みは立たれたよコノヤロー

「そこまでだ！」

そのこえにびくつとした。

ゲームなどだったら

コマンドなどが出るのかもしれないが、

これはゲームじゃない。

そう、自分で考えて出すコマンドなのだ。

更に生死をわかるほどの選択肢だ。

どうすんの？どうすんのよ？俺？

拳では勝てないし・・・

「ねむるがいいわ！」

落ち着け・・・脳をフル回転させるんだ・・・

奴が持っているのはMk22、  
麻酔銃か・・・どうやら、  
殺すことはないようだ。

バチユ！！

銃声がした。

サプレッサーをしていたので

そんなに音はしなかった。

麻酔銃は所詮は

麻酔針、

気づいたらマンガをたてにしていた。

「なっ！！」

そう、Mk22は連射式ではない。

所詮は麻酔針なので、マンガで止められる。

後はマンガのページをバラバラにして

目くらましに使った。あとは、思いつきり走った。

「やーいざまあみろーってんだ。クソが！少しは頭使え！

お前の母ちゃん、CDラック！」

捨て台詞を言った後、全速力で走った。

なんて雑魚キャラな役・・・

道路に出た瞬間、信じられない光景が

目に映った。

皆さん、日本では、何の戦車があると思いますか？

私の知識では確か90式戦車だったはず。

また、96式装輪装甲車、99式自走155mm榴弾砲と装備の近代化が進んでいたはず。

素人にはわかりませんが、とにかくすごいということ  
を認識しといてください。

その戦車が目の前にあるのだ。

「ああ・・・ああ・・・」

町にあるスピーカーから音が聞こえた。



「おおつ君は今にも死亡フラグが  
たちまくりの親戚の次郎じゃないか！」  
「こ・・・こんばんは黄泉おじさん。」

このひとは親戚の黄泉 河  
今年までニートだったひとだ。

26才でよく就職できたなと、おもつ。

「逃げ遅れちゃったの？じゃあ戦車のうしろか、  
テントに隠れていなさい。」

なんで逃げ遅れた市民をそんな大前線の

前におくんだよ。普通うしろに非難させるよ。

「おつと撃ってきたぞー」  
え？

うってきただつて？

・・・あれ？おかしいな・・・

ゴ布林みたいなのに棍棒ではなく  
銃を持っているぞ？あれ・・・

「自衛隊のみなさあんなにかおかしくないですか？

なんで魔物がAKもってんですけどおおお」

(AKとはマシンガンみたいなものです。)

「あたりまえだよゲームと一緒にするなよ

まさか槍とか持っていると思ってるの？」

想像的にはそおだあるおがぁー

そのときプロペラ音が聞こえた。

「くそっへりかつ」

「どうするんですか！？相手もへりもって来ましたよ！」

「大丈夫、俺に考えがある。」

「おおつ！！」

自衛隊に入れただけの頭脳は  
あつたということだ。

「して、そのアイデアとは？」

俺はすことわくわくしながら黄泉おじさんを見た。

「次回に続くと言うのはどうだ？」

わたしは無言で黄泉おじさんを殴った。

「ああっ、そんなことしてる間に

爆撃いいいい？！」

「次郎っ！」

「なんですかあああいいいい報告ですかああ？」

「天国で会えたらいいな……」

おいいいいいいいいい。

その時、爆発音が耳に響いた。

次回作に続くかも？

## 第一話、旅立ち？（後書き）

こんな駄作読んでくださって  
ありがとうございます。

次の作品はなるべく早く書きます。

ちなみに間違い、直したほうが良いのは  
書き込んでください。

できるだけなおします。

最後に一言

感想は苦情だらけになることが予想されます。

苦情でも良いので作品の感想をよろしく願います。（ペンネー  
ムのほうはテキストです）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4514c/>

---

現代勇者物語

2010年10月9日05時00分発行